

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護士福井盛太の上告趣意は、判例違反をいうが、所論判例は本件に適切でなく、従つて、その前提を欠くものであり、また、違憲をいうが、その実質は単なる法令違反の主張に帰し、刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。そして、被告人に対する本件起訴事実と第一審判決の認定事実との間には、贈賄の主体の資格関係に差異あるだけで基礎たる事実の同一性にも、訴因、罰条にも差異はないのであつて、この点に対する原判決の説示は正当として是認することができるから、同四一一条を適用すべきものとは認められない。（なお、被告人の防禦に実質的な不利益を生ずる虞れのない場合には訴因変更の手續をしないで公訴事実の範囲内に属する事実を認定しても差支えない旨の昭和二六年（あ）二九八七号同二九年一月二一日、同二六年（あ）二五二六号同二九年一月二八日当法廷判決参照）

よつて同四一四条、三八六条一項三号により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和二九年三月二五日

最高裁判所第一小法廷

裁判長裁判官	斎	藤	悠	輔
--------	---	---	---	---

裁判官	真	野		毅
-----	---	---	--	---

裁判官	岩	松	三	郎
-----	---	---	---	---